
第6回杉並区都市計画審議会
まちづくり専門部会議事録

平成18年(2006年)6月9日(金)

議事録

会 議 名	第6回杉並区都市計画審議会まちづくり専門部会	
日 時	平成18(2006)年6月9日(金)午後6時から8時	
出席者	委 員	村上委員、大原委員、井上委員、樋口委員、松本委員
	行政職員	まちづくり担当部長 都市計画課長、まちづくり推進課長、拠点整備担当課長
傍 聴	申 請	23人
	結 果	23人

発 言 者	発 言 内 容
-------	---------

都市計画課長 申しわけございません。定刻を過ぎましたが、会議の開催をお願いします。
 なお、本日、委員より所用のため欠席との連絡をいただいております。
 したがいまして、委員6名に対し5名の出席をいただいておりますので、本日の杉並区都市計画審議会まちづくり専門部会は、有効に成立しております。
 なお、申請人より資料の提出がございましたので、本日、委員の皆様の席上に配付してございます。
 それではよろしくお願いたします。

部会長 それではただいまから、第6回杉並区都市計画審議会まちづくり専門部会を開催いたします。
 本日、傍聴の申し出は何名でしょうか。

都市計画課長 本日、さん他21名の方から傍聴の申し出がございました。

部会長 わかりました。
 それでは皆さん、前回にならってよろしいですね。

都市計画課長 また、本日は会議のテープ録音等をしたい旨の許可願いは出ておりません。

部会長 許可願いは出ていないのですね。

都市計画課長 出ておりません。

成田地域まちづくり協議会 申しわけございません。今からさせていただいてもよろしいでしょうか。

都市計画課長 わかりました。何をですか。

成田地域まちづくり協議会 ビデオ並びにデジタルレコーダーでの録音をお願いしたいと思います。

都市計画課長 ビデオ並びにデジタルレコーダーでの録音の申請がございました。

発 言 者	発 言 内 容
部会長	それにつきましては、皆さんいかがですか。前回に引き続き、同じ条件ですから、許可するということによろしゅうございますか。異議ないですね。それでは、許可いたします。
都市計画課長	はい。
部会長	撮影に当たっての注意は、前回と同じように、ビデオをお撮りになる時は、肖像権の問題等も出てまいりますので、あまり傍聴者の方ではなく、こちらのほうを撮っていただくということをお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。
	それから、今日初めていらっしゃる方もおられるかもしれませんので、傍聴人の方をお願いしたいことは、前回と同じく、「お願い」という紙が行っていますね。会議の進行を妨げるような場合、出ていただくということもございしますので、進行上、ご協力よろしくお願ひいたします。
	それでは、議題の宣言をお願いいたします。どうぞ。
都市計画課長	本日の議題は、前回のまちづくり専門部会で継続審議といたしました、成田地域まちづくり協議会の杉並区まちづくり条例に基づくまちづくり協議会の認定についてです。よろしくご審議のほどお願ひいたします。
	本日は、前回と同様に、成田地域まちづくり協議会から 様、 様、 様、 様にご出席をいただいております。
	また、本日は参考意見を聴取するため、阿佐ヶ谷住宅建替え組合、 様、 様、 様、 様にご出席をいただいておりますことを報告いたします。
部会長	それでは、前回に引き続きまして、申請のあった成田地域まちづくり協議会の認定審議を行います。
	初めに、委員から申請人の方へ質問をして、その後にもた議論いたします。前回、既にいろいろ意見を聴取しておりますので、その後、まとめて成田地域まちづくり協議会の方に質問事項を示しておりますので、その説明をまず伺いたしたいと思います。よろしゅうございますか。
	今日の予定としまして、大体2時間でございますが、後半の我々委員の意見交換というのが重要でございますから、前回、意見聴取は1回やっておりますので、このご回答いただきます3項目については、大体15分ぐらいでお答えいただきたいと思ひます。
	最初に、具体的な活動目的と目標、今後の活動日程ということで、これは前回

発 言 者	発 言 内 容
-------	---------

も伺っておりますが、いろいろな意向の方が集まって協議会をつくらうとして
いると。前回伺いましたところ、少しずつ意見にずれがあったようにも思いま
すし、ひとつに絞れていないかなと思います。集まられた趣旨はともかくとし
て、この協議会の具体的な活動目的、スケジュールも含めた、そういった活動
目的等についてお話しいただきたいと思います。

それでは、説明者席へどうぞ。

成田地域まちづくり協議会 質問にお答えする前に、前回のまちづくりの専門部会において、我々の成田
地域まちづくり協議会に阿佐ヶ谷住宅建替え組合の方の参加をお願いしたらど
うかというお勧めがありましたので、大変結構なことです。早速、関係書
類を持参しましてお願いしたのですが、残念ながらお断りの文書をいただきま
したので、一応ご報告申し上げます。

部会長 ちょっとどういうことですか。

成田地域まちづくり協議会 この間、部会長が我々の成田地域協議会に、委員として阿佐ヶ谷住宅から 1
人でも入れたらどうかというお勧めがありましたよね。

部会長 協議会に入ったらどうかということですか。

成田地域まちづくり協議会 はい。

部会長 いいえ。意見交換をしたらどうかということで申し上げて、会員になったら
どうかまでは言わなかったですよ。それは自由意志ですから。

成田地域まちづくり協議会 そうですか。

部会長 はい。まあ、わかりました。

成田地域まちづくり協議会 一応は、阿佐ヶ谷住宅側の何ていうのですか、建替え組合の理事長あてに文
書で出したのですよ。

部会長 わかりました。

成田地域まちづくり協議会 それは資料で出させていただいていると思います。資料の 1 番と 2 番。1 番
が、こちらのお出ししたお手紙で、2 番が回答をいただいた回答書になってお
ります。

部会長 わかりました。

成田地域まちづくり協議会 前回いただきました宿題で、初めから説明をさせていただきたいと思いま
す。
まず初めに、今回も改めて強調しておきたいことは、私どもの成田地域まち
づくり協議会のメンバー全員 1 人残らず、阿佐ヶ谷住宅の建替えに反対をして
いらっしゃる方はおひとりもないということです。これをまず前提に協議会

発 言 者	発 言 内 容
-------	---------

を立ち上げているということをお伝えしたいと思います。

活動の目的ですけれども、前回もお伝えしているので重複するところがあるかと思いますが、今まで阿佐ヶ谷住宅の建替えについては、いろいろなところでいろいろな意見をお持ちの方が多数いらっしゃるということで、大まかに言うと、4つぐらいの団体が反対していらっしゃるということがあります。今回、私どもの立ち上げたまちづくり協議会には、それらの会の方々が、それぞれメンバーとして参加していただいているということからもおわかりいただけるように、よりよいまちづくりを目指している方々の意見を集約して、できましたら1本に絞ってご提案ができるという形を目指しております。

実際には、前回、委員さんからご指摘があったように、1本に意見を絞るのは大変じゃないかということで、それには多分、労力もエネルギーも本当に、費用もいろいろとかかってくると思うのですけれども、そこら辺をクリアにしたいということがまず1番で、認定を受けたいということになると思います。まず信用がないと、各方々の意見を集約することも、実際、難しいのです。

まちづくり協議会として立ち上げたのは新しいのですが、その前からずっと活動はしております。例えばひとつ資料をお出ししておりますが、署名活動をしておりまして、これは建替えには賛成ですが、地区計画の120%の緩和策に対しては反対しますという署名をいただいております。その集計の数はそちらにお出ししていると思いますけれども、1,000名以上の方が署名して下さっております。

昨今の署名ですと、インターネットを使って募っていらっしゃる方も多いので、どこのだれがそれをやっていたらいいかわからないということもあるのですが、その1,000名の方々は、実際に会員の方々が地図を使って、1軒、1軒、個別にトントンと戸をたたいて集めさせていただいているものです。これをやって本当にわかったことは、個人で個別にトントンしても、開けてくださる方すらいらないという状況です。これを、本当に時間をかけてコツコツやってまいりました。

例えば、認定を受けたということで、「認定を受けた会のメンバーです」ということであれば、やはり人が意見を聞いてくださる、耳が開くというところでも、活動には大変大きい意味があると思いますので、今回は認定を受けたい

発 言 者	発 言 内 容
-------	---------

と思っているところです。

それを前提に、いろいろな方々の意見の集約。あと、今現在は阿佐ヶ谷住宅の建替え組合さんと反対の会ですとか、行政の方々のパイプになるものは、はっきり言ってない状態にありますので、そのパイプ役をこのまちづくり協議会が担うことができればいいのではないかと、今、目指しております。

実際には、前回、名前も同じで紛らわしいとおっしゃっていた協議会が平成15年にありましたが、ここに私がまちづくり協議会で区の方が出された報告書というのがあります。12回ありましたので、12回分あるのですが、ちょっと量的には多くなりますので、2つにまとめたものです。

まず中間のまとめ、平成16年8月の中間のまとめと、最終の報告書という2つだけここにお持ちしました。おわかりいただきやすいように、実際には付箋をつけてきたのですが、この黄色い付箋があるところは、道路についていろいろと意見がある、問題点などが出ているところです。黄色が道路で、緑がその他の高い建物が建つことに対する弊害ですとかそういったことが書いてあります。ピンクの部分は実際に具体的に反対の意見が書かれている箇所です。オレンジは私が個人的につけたものです。例えば、この協議会は多数決をとるということはしないで、意見をとにかく出してくださいというふうにつくられた協議会ですというような内容が書かれています。なので、まちづくり協議会として大半の方々の意見をまとめて、こういう意見になりましたというような形は、ちょっと疑問が残るところなのですが。

問題はこの付箋がされているこれらの問題点を、そのまま、いまだ解決するとか、対策が1つも出されていないまま、この計画が進められているのです。なので、まずはこれをまちづくり協議会としては1つ1つ見直して、案を出していきたいと思っております。それに関しまして、メンバーはやはり素人の方が多いです。私自身もただの主婦ですし、そういう方々が集まっているということを見ると、専門家を呼んでセミナー形式で勉強するというのも必要であるということで、ちょっと前後するかもしれませんが、セミナーの勉強会については資料でお渡ししました。具体的に日程も内容についても、もうセッティングをして、そちらに提出させていただいている、「これからの日程」ということになっております。

活動の目的と目標、その活動の日程等は、そこら辺でわかっていただけるの

発 言 者	発 言 内 容
-------	---------

ではないかと思うのですが。前回、地域住民の参加ですとか、成田東5丁目に1人しかいらっしゃらないじゃないかというようなご指摘も受けましたし、阿佐ヶ谷住宅建替え組合さんとの関係をどうするかというようなご質問もいただきましたので、今、会長から説明がありましたが、それはもうごもっともだということで、阿佐ヶ谷住宅さんのほうにもお手紙を出しまして、もしメンバーになっていただける方が1人でも2人でもいらっしゃれば、ぜひメンバーになっていただきたい。あるいはこういうセミナー、もう第1回を開催しましたが、それに関してもぜひご参加いただきたいということをお願いを出しました。

回答はそこについているような回答が返ってきています。また、成田東5丁目の自治会あてにも同じような文書を出しておりまして、幸いなことに成田東5丁目の自治会の要請を受けて、それを見た方々のうちの3名ほどが、実際にメンバーに登録してほしいということなので、一緒に活動していただくような形にもなっております。

今申し上げたように、実は認定されたほうが信用性も上がりますので、これからメンバーを募るほうはやりやすくなるのではないかなと思っているのです。実際には、今までもこの地図を使って、地域の方々に2,000枚ずつ、大きいものでは2,000枚を3回ほど、ビラを配って活動もしております。わかりやすいように、一応、ピンクで。実は区のほうで配付している地域というがあるので、それをもとに配付させていただいておりまして、他に道路の件がちょっと気になっておりますので、個別に道路沿いの方々に、詳しく言うと、戸建ての方を対象に2,000枚配っています。今までもビラをまいたりとかして活動しておりますので、認定を受けましたら、もう少し大きな規模でそういうこともやっていきたいと思っております。そこで、地域の住民の方々の参加は大体得られるのではないかというふうに考えております。

部会長 今はまだ2番の説明をされているということですね。今後の組織運営とその継続性。

成田地域まちづくり協議会 そうですね。すみません。

部会長 地域住民の参加予定というところをお話しされている。

成田地域まちづくり協議会 すみません。わかりにくかったですでしょうか。

部会長 それでは、それはそれでいいですか。

成田地域まちづくり協議会 はい。結構です。

発 言 者	発 言 内 容
-------	---------

部会長 じゃあ、3項目め。

成田地域まちづくり協議会 3番目は、「活動区域が重複する阿佐ヶ谷住宅の建替え計画区域における活動や関与のあり方について」というふうにあります。まちづくり自体の成功例というのは、その地域の住民と行政の融合でこそ成り立つものだと私どもは考えております。ですから、今回はいろいろな団体の中からメンバーを集めて、まちづくり協議会というのを立ち上げておりますので、私どものまちづくり協議会、あと阿佐ヶ谷住宅建替え組合さん、あと行政の杉並区のまちづくり推進課になるかと思えますけれども、そちらの三位一体で活動できるような形でやっていきたいというふうに思っております。

実際には、もう既に阿佐ヶ谷住宅さんにはお声かけをさせていただいたりしておりますし、今回、ちょっと残念ながら、お断りをいただいているので、それについては行政の方々に中に立っていただいて、お話し合いの機会なり、セミナーなんかで一緒にお勉強をしてというふうな形がとれば、1番いいのではないかと思っております。

3番目はそういう感じで考えておりますが、いかがでしょうか。

部会長 わかりました。以上でよろしいですか。

成田地域まちづくり協議会 はい。

部会長 それでは委員の方々、質問ございますか。どうぞ、委員。

委 員 2,000枚配られたというピラですが、どのようなピラを配られたか、今お持ちだったら見せていただけますか。

成田地域まちづくり協議会 あるはずですが、3回にわたってなので、実際に配られたものとしては1枚しか、今、ないのですけれども、原稿はありますので、もしよろしかったらコピーをしていただいて。

部会長 原稿でもいいのではないですか。内容をちょっと。何日ごろに配られているのですか。

成田地域まちづくり協議会 今、お持ちいただいているのは、平成17年の10月に配らせていただいているものです。

部会長 17年の10月。その他、3回とおっしゃったのは。

成田地域まちづくり協議会 具体的に申し上げますと、第1回目が17年の10月、次が11月です。それから、10.....。

部会長 委員、今、ご覧になってどうですか。

発 言 者	発 言 内 容
委 員	回しますが、これは阿佐ヶ谷住宅高層化など反対協議会として配っておられるわけですね。
成田地域まちづくり協議会	はい。
委 員	成田地域まちづくり協議会としてではないのですね。
成田地域まちづくり協議会	もちろん、そうではないです。そのときにはまだつくられていません。立ち上げておりません。
部会長	このチラシを持っていたか。見たことありますか。
拠点整備担当課長	私は見たことはございません。
部会長	そうですか。後でコピーして。
まちづくり担当部長	ちょっと待ってください。現物がわからないから。見ていませんから。
部会長	そうですね。はい。それではこの後、回してあげてください。一応、コピーをもらっておいてください。いいですか。こういうものが配られたということです。 委員、よろしいですか。意見はございますか。今、確認されたことでいいですか。
成田地域まちづくり協議会	それについては、ビラを配った理由は、その下に書いてありますが、説明会等を設けておりますので、その周知のためだというふうにとっていただければと思います。実際には、今の1番初めのものは17年の10月22日の土曜日に産業会館で、阿佐ヶ谷住宅高層化など反対協議会の主催の説明会をさせていただいているのですね。そのための周知のためのビラになります。
部会長	ですから、成田地域のまちづくり協議会ではないということですね。
成田地域まちづくり協議会	ないです、はい。
部会長	それだけで結構です。
成田地域まちづくり協議会	3回とも、それは別な反対の会のものになります。
部会長	はい結構です。はい、どうぞ。
委 員	簡単に答えていただきたいのですが、皆さん方の協議会と高層化等反対協議会とどこが違うのか、ちょっとおっしゃってくれますか。簡単に。
成田地域まちづくり協議会	私も途中から参加していますのでわからないのですが、まず、反対の会というのは、かなり前から始めていらっしゃる。なので、その反対の会を立ち上げた方の中には、もともとの全部を否定するような反対という方もいらっしゃるようです。ただ、その方々が活動しているかどうかというところには疑問がありますが。実際問題、多分、阿佐ヶ谷住宅の方々にお聞きいただければ

発 言 者	発 言 内 容
-------	---------

わかるのですが、反対の会というのがあるというのはご存じだと思います。しかも、その反対の会は、すべてを反対しているというふうにとらえていらっしゃる方が多いと思います。建替え自体は反対ではありませんし、私どものまちづくり協議会は、まちづくりとして見た場合に、いいものをつくっていきいたいというのが主体ですので、そこら辺がちょっと違うかなということです。

部会長

どうぞ。 委員。

委 員

すいません。僕の勝手な解釈かもしれませんが、先ほどの協議会に対する質問事項に対するご報告の中で、私たちが2,000枚×3回のビラを配りましたというご報告をいただきましたので、そのビラに書いてある内容その他、今のまちづくり協議会の趣旨、お考え方と、少なくとも反しないものというふうには私は理解しましたが、それでよろしいですね。

成田地域まちづくり協議会

もう1度、言っていただけますか。すいません。

委 員

そこに書いてあることは、今、協議会の皆さんから伺っていることと同一であるというふうには私は理解しましたが、それはそれでよろしいですねということです。私たちが配りましたとおっしゃいましたので、当然、ご趣旨に合ったものを配られたわけですね。

成田地域まちづくり協議会

私たちと申し上げたのは、私自身が反対の会のメンバーでもあったので、言葉の間違えましたので訂正させていただきます。反対の会の方々はというのが正解かと思います。すみません。私がたまたま反対の会のメンバーで、その活動に入っていましたから、私たちと申し上げてしまったのですが、これはあくまでも反対の会の趣旨であります。今は、まちづくり協議会とは趣旨が違うのです。なぜかという、反対の会のメンバーも、私のようにこちらのほうに入っております。しかも、PTAの方ですとかアカデミックな方も入っていただいています。今現在、地権者の方はいらっしゃらないのですが、居住者の方も入っていらっしゃるということでは、皆さんの統一した意見として、いいものをつくりたいというところに意見が初めて落ち着いたという意味で、今までと全然違う構造になっていると思うのです。今までは、外の周辺住民の私としても、中の方々は周辺住民を拒絶しているというふう感じておりましたし、中の方は中の方で、周辺住民の方はただ反対してお金をもらいたいぐらいの勢いで反対しているとしか思っていられなかったのです。今回、初めて

発 言 者	発 言 内 容
-------	---------

同じ会で集まったことによって、皆さん思っていることは同じで、まちづくりとしていいものを立ち上げたいというふうに思っている方が多かったということで、これはあまりにも反対ということ打ち上げ過ぎているので、このものと成田地域まちづくり協議会は、趣旨が違うところにあると思っております。

部会長

おっしゃっていることはわかりましたが、この地域にこういうものを配ったと最初におっしゃったので、内容を確認したということですから、それはそれでいいかと思えます。判断はこちらでいたしますので。

それでは、ご意見、質問はもうよろしいですか。

次に、阿佐ヶ谷住宅建替え組合の方たちに座っていただきます。席を交代してください。

きょう、阿佐ヶ谷住宅建替え組合の方々にお話を聞きましたら、10分ぐらい休憩いたします。その後、各委員で意見交換をして結論を出したいと思えます。大体、質問等含めて10分ぐらいを考えておりますので、よろしくお願ひします。

きょうはご出席、ありがとうございます。

それでは、正式な名前とご身分をおっしゃっていただけますか。

阿佐ヶ谷住宅建替え組合 阿佐ヶ谷住宅建替え組合理事長の と申します。

部会長

わかりました。今、会員の方、組合の委員さんは何人ぐらいいらっしゃるのですか。

阿佐ヶ谷住宅建替え組合 組合員は150名です。

部会長

全員、権利者ですか。

阿佐ヶ谷住宅建替え組合

そうです。

部会長

そこに入っていない権利者さんはいらっしゃるのですか。

阿佐ヶ谷住宅建替え組合

おかげさまで、全員合意です。

部会長

全員が会員ですね。

阿佐ヶ谷住宅建替え組合

はい。そうです。

部会長

結成されたのはいつですか。

阿佐ヶ谷住宅建替え組合

建替え組合の決議が成立したのが12月で、3月に組合が成立したところです。

部会長

平成6年から建替えについてのいろいろな協議が始まったということですが、

発 言 者	発 言 内 容
-------	---------

今に至られた簡単な経緯と想いを語っていただけますか。

阿佐ヶ谷住宅建替え組合 平成6年、建替え組合の再開発委員会のメンバーという形で私自身は入りました。実は阿佐ヶ谷住宅は、今までに何回も再開発ということをやろうとしては終わり、途中でぼしゃったりなんかして、何べんもぼしゃっていました。

実は、私は再開発には反対の人間でした。なぜ今度の再開発委員会に参加したかということ、やはり反対の立場から見たらどうということだろうと。私の個人的なところをちょっと言わせていただくと、阿佐ヶ谷住宅で結婚しまして、子供をもうけました。やはり、あまりにも部屋が小さいものですから、外のほうにもっと広い部屋が欲しいなと、家を欲しいなと思って探したのですが、阿佐ヶ谷住宅ほどいい場所がなかった。部屋は小さい、家は小さいですが、子供たちが玄関から飛び出しても庭から飛び出しても、横が広場ですから、車も心配しないで、安心して住んでいけると。私自身、非常にいい場所だと思っています。それから小さいですが、自分の専用の庭もある。その周りは共有地もあると。緑豊かなところですよ。この場所というのを私は失いたくなかった。

そういう意味で反対していたのですが、いずれにせよ、いつかは再開発をしなければいけない。そういうふう考えたとき、この阿佐ヶ谷住宅のいい環境というものを維持しながら再開発するには、どうしたらいいかというふうに考えると、ただ反対するだけではなく、再開発委員会の中に入って、やはり自分の意見を反映していこうということで入りました。平成6年から始まったのですが、私自身のコンセプトというのは、やはり車と人間との分離です。

阿佐ヶ谷住宅のいいところは、それぞれ住んでいる人によっていろいろと違います。ただ、建替え組合としては全員合意というのが必要なわけです。ご存じのように、阿佐ヶ谷住宅というのは、マンション的な中層棟、それからテラスハウスと2つあります。そこに住んでいる人たちの価値観は違うわけですね。その人たち全員に合意してもらうには、どうしたらいいのかというのが、やはり1番重要なところだったと思います。

それでずっとやってきまして、確かに高くなることは仕方ないけれども、私自身の経験からいって、皆さんもそうだったわけですが、やはり空間というのをどうしたら確保できるのかと。ただ、もう1つ、我々が考えなくてはいけなかったのは、今、阿佐ヶ谷住宅が非常に高齢化しています。もちろん、財産がある方もいらっしゃるでしょうが、持っているのは自分の家だけだという人た

発 言 者	発 言 内 容
-------	---------

ちも参加できるような計画でなければいけないということで、いろいろ試行錯誤した結果というのが、今回の阿佐ヶ谷住宅の計画だったと思います。

その中でもって、地区計画という言葉、いろいろ言葉は変わってきたのですが、結果的に今、地区計画を適用することによって、確かに高さというのは我々も決して低いとは思わないのです。ただ、空間がどうしても欲しいときに、その空間をどういうふうにかかしていけるかということでやってきたのが、今回の計画だったと思います。

ご存じのように、我々の駐車場は、極力地下のほうに入れてあります。それから、車と人間の交差点、交差するところを極力少なくしています。それから、駐車場の上は空地として、緑として使えると。そういうふうな形で、我々、住んでいる人間から見たときの、阿佐ヶ谷住宅の持っている特性というものをできるだけ残していきたいという形でできたものが、今の計画だと思っています。

決してベストとは思ってはいません。ただ、今、我々が考えられるところとしては、全員が何とか参加できる、それから、阿佐ヶ谷住宅の持っているいいところも何とか残していけるという意味での計画としては、そこそこのところだったのではないかとこのように思っています。以上です。

部会長 ありがとうございます。今後の予定をわかっている範囲でお願いします。全員合意で進めていくので、なかなかそのとおりにいくとは限りませんが、今、目標としていらっしゃるスケジュールを簡単に結構ですので。

阿佐ヶ谷住宅建替え組合 スケジュールとしては、当初、今年の初め頃には、10月ぐらいに我々全員、移らなくてはならないのです。2年半ぐらい阿佐ヶ谷住宅を離れて、阿佐ヶ谷住宅を壊して再開発ということを考えていたのですが、反対されている方との交渉なり何かということを考えてみますと、非常に難しいということで、3カ月か6カ月か遅れざるを得ないのかと。

我々自身としては、先ほども言いましたように、ご高齢の方もいらっしゃいますし、何とか早く方向性を出したいと思っているのですが、やはり反対されている方々との交渉を含めて、時間が必要だということに感じております。

部会長 ありがとうございます。委員の方々でご意見とか質問をどうぞ。

委員、どうぞ。

委 員 今の反対の方との交渉というお話ですが、どういう形でやられているのか、ご紹介ください。

発 言 者	発 言 内 容
-------	---------

阿佐ヶ谷住宅建替え組合 今、具体的には、高層化反対という1つのグループとやっています。我々の主張は説明会を通してお話ししているつもりなのですが、我々として、ある意味で幸いだと思うのは、反対ということで1つのグループをつくっていただいて、そこと我々が交渉していただいている。そういう意味では、まとめたいただけかなと思ったのです。けれども、正直に申しまして、反対されている方のレベル、いろいろな意味で反対されている方がいらっしゃるので、どういう形で我々がそれをまとめるか、判断していったらいいかというのは、非常に苦慮しているところです。

委 員 定期的に、例えば月1回やっているとか、何人ぐらいでどうしてやっているとか、そういうのがあれば教えてください。

阿佐ヶ谷住宅建替え組合 反対のグループの方との今までの会合は3回です。ただ、やはりどちらかという、どちらも主張することを主張してしまい、具体案なりを考えないと先に進めないということもありまして、つい最近、内部での状況説明ということで、組合員の方々のご意見をお聞きしたところです。その結果、今後どういったらいいかというのを、この理事会の中でもって、改めて判断しなくてはいけないというのが現状です。

委 員 反対協議会との対応のお話はありましたが、そういう会に入っていない周辺にいらっしゃる住民の方たちに対する情報の提供や周知はどうやっておられるのですか。あるいはまた、今後、どのようにやろうというふうにお考えになっているのか教えてください。

阿佐ヶ谷住宅建替え組合 今まで実際にやったことは、周辺の町内会の方々に対しては、毎月1回ぐらいいやっていたらいいと思いますので、そのチャンスを利用して、我々の再開発の計画というのはどういうものなのかというのをお話しさせていただいています。1つの町内会に対して今まで2回ほどやっています。

それからもう1つは、説明会ということで、最近3回ほどやっているのですが、なかなか出席していただける方も少なかったもので、パンフレットというかチラシを配ったところに、我々の阿佐ヶ谷住宅としての趣旨はどういうものかというふうなものを、まだ1回ですが、配付させていただいております。

部会長 どなたか他に質問はありませんか。どうぞ。

委 員 今回の成田地域まちづくり協議会がこういう形でできているという情報というか、認知されたのはいつごろでしょうか。

発 言 者	発 言 内 容
阿佐ヶ谷住宅建替え組合	たまたま事務局が区に行ったときに、こういうふうなものが出されていますよということをお聞きしたのが初めてです。
委 員	この2月か3月か、そんなところですか。
部会長	区役所のどなたにお聞きになったのですか。
阿佐ヶ谷住宅建替え組合	確か区役所のまちづくり推進課だったと思います。
部会長	それではその頃までは、こういう協議会ができるということをご存じなかったのですね。
阿佐ヶ谷住宅建替え組合	知りませんでした。
部会長	区を通して知られた。
阿佐ヶ谷住宅建替え組合	はい、そうです。
部会長	その後、例えば協議会側から、こういう会を考えているとか、そういうお話を直接聞かれたことはありますか。
阿佐ヶ谷住宅建替え組合	直接にはありません。先ほどの参加依頼という紙をいただきましたので、具体的にはそれだけです。
部会長	わかりました。どうぞ。
委 員	先ほど、協議会の説明の中で、そういう会に参加しませんかという依頼が文書で来て、お断りになったとおっしゃいましたが、そのお断りになった理由があれば教えていただけますか。
阿佐ヶ谷住宅建替え組合	私が今、委員長をしておりますのは、阿佐ヶ谷住宅建替え組合です。先ほども言いましたように、建替え組合は所有者全員の合意でもってできている建替え組合です。もう具体的に先に進もうとしているところです。趣旨自身がよくわからなかったということと、それから、改めてまちづくりというのが、もうそれこそどういう意味なのだろうと。参加するという意味すら正直言ってわかりません。
阿佐ヶ谷住宅建替え組合	補足させてもらってよろしいですか。
部会長	はい、どうぞ。
阿佐ヶ谷住宅建替え組合	私、阿佐ヶ谷住宅の建替え組合の副理事長をしています と申します。今、がおっしゃったことがちょっと舌足らずだったと思うので、述べさせていただきます。
	まず、我々、先ほど言いましたように150名、組合全員が今の案に合意しております。これを進めるのが我々、委員会の役割だと思っています。その中

発 言 者	発 言 内 容
-------	---------

で、ここに行き着くまでの今の案というものが、どういうプロセスで進められてきたかということがあるかと思います。これは、先ほど言いました平成6年からスタートしながら、いろいろな意味で地域に根差した再開発という格好で、行政の指導とか、あるいは、ある面ではいろいろな、以前ありました、区が主導で設定された、まちづくり協議会の趣旨に沿ったような格好で、我々はある面では少し不満足だったり、あるいは口を挟んだりするところもあるのですが、大同に就くという格好で、その内容に、ある面ではまとめ上げた精神があるかと思います。その趣旨のもとに我々の内容はできているという格好で、そのバックグラウンドをもとに、組合員全員に対して合意形成できたという格好です。

その内容に関しまして、我々はこの阿佐ヶ谷の中で、ある面では将来のまちづくりに立脚した内容だと思っています。それは基盤あるいは環境、緑、それから自然、人間、車、すべてある面では、それが未来を語っている構想ではないかと思っています。その構想に反対される方々で構成される、今回の協議会に対しては、我々は組合に対して、その会を認めるというか、ある面ではこの会に入るというのは信義に反します。そういうこともありますし、我々自身が、今のこの構想自身をある面ではベストだと思っている中で、それを進める責務からも、この会に入るというのは、組合に対して許されない行為であるという格好からして、今回、お断りしたということです。当然ながら、我々の資産である、阿佐ヶ谷住宅の場をお貸しするというのも、これはちょっとできないかと思っています。

ただ、先ほど委員長が言いましたように、反対協議に対して、やはり我々も正攻法として対峙するべき責務があると思いますので、組合員の意見を聞きながら、その反対の趣旨をちゃんとつかまえながら、行政とともに、いいまちづくりがさらにあるのかどうかを検討したいと思っています。ただ、現時点は、今まで平成6年から12年にかけて検討し、かつ行政とも、あるいは、ある面ではいろいろな説明会、あるいは町内会の説明した内容、今の内容そのものがベストだと今のところ感じているという状況です。

部会長

ありがとうございました。この成田地域のまちづくり報告書は、私どもも拝見させていただいて、阿佐ヶ谷住宅の区域より、少し広めの区域でいろいろ検討され、それを全部合意ということではないにしても、最大公約数的なものが書かれているというふうに拝見させていただいております。これをどう受けと

発 言 者	発 言 内 容
-------	---------

めて進めていくかということは、団地内と周辺との2つの大きな問題があるというふうに認識しております。今のお答えでは、この趣旨に沿って内部の建替えは行おうと。趣旨に沿っているかどうかはまた別の判断で、私たちのこの場合は、計画の内容を云々するところではないので、そういう趣旨で進めておられるというふうに理解します。

周辺の地域について、周辺も含めた、いいまちづくりをしたいというのが、今回の申請人の趣旨なわけです。その辺をとらえた活動として、適切なグループかどうかということをご議論するということになりますので、それはご承知いただけますでしょうか。

それでは、一応、お聞きしましたので、どうでしょうか。はい。

委 員

若干、感想をお聞きするような感じになるかもしれませんが、この成田地域のまちづくり報告書、以前の協議会、ここで議論された内容に関しては、議論された内容はともかくとして、不満もあったかもしれませんが、実績に関しては評価をされているというふうにとらえてよろしいですね。

阿佐ヶ谷住宅建替え組合 はい。

委 員

仮にこのまちづくり協議会で議論し尽くせなかったこととか、微調整が必要なこととか、それからさらに拡大して、さらに検討したようなこと、恐らくそういうようなものを抱えたまま、解散されたということなのではないかとお聞きしています。

それで、仮にと言うと変ですが、前回のこのまちづくり協議会がさらに発展的に継続するというようなことに関して、つまり、そういう協議の場、議論の場を前回の土俵の上に積み重ねることに関しては、特に反対ではないというふうに。そういう場を持つことに関して、内容はともかくではなくて。

阿佐ヶ谷住宅建替え組合 我々はこの前の協議会の結論というものに対しては、尊重するというのでやってきました。その後、区と半年間、この内容で我々がのめるかのめないかと。尊重はするけれども、内容について、我々はどこまで譲歩しなくてはいいかというふうな形でやってきました。我々からすると、この前の協議会を含め、具体的な計画を立てて、説明会を始めてから、もう既に2年経っています。先ほども言いましたが、高齢の方々が数多くいらっしゃいます。その中で亡くなられた方も既にいらっしゃいます。正直言って、これ以上待てないのが実情です。時間があればそういうこともできるのかもしれませんが、我々の所

発 言 者	発 言 内 容
-------	---------

所有者の中には、そういう意味で、これ以上待っていると、多分、100%合意ということが、結果的にはもう無理になるのかなという感じがしています。

委員 わかりました。要するに、協議の段階はほぼ終わっているというご認識と考えてよろしいでしょうか。

阿佐ヶ谷住宅建替え組合 すべて、どなたにも満足できるものはないと思うのですよ。それぞれが不満は残しながらも、どこで折り合うかということだろうと思ってはいます。

阿佐ヶ谷住宅建替え組合 私自身もまちづくり協議会のメンバーとして入らせていただきました。この1年近くかけてやってきた内容の中には、現地のいろいろなところの見学や、いろいろな課題、あるいは問題点を洗い出しながらやってきたつもりです。結論としては、すべての人がすべて受け入れられるというのは非常に難しいという格好かと思います。ただ、必要なことは、21世紀から22世紀に向けて、将来に向けて、この100年先を考えたときに、どういうまちがいいのかということまで論議したはずですよ。それは何かと云ったら、一旦再開して建物を建てたら、これから50年、60年、100年は作り直しができないわけです。そういうことを考えたら、我々もある面では我慢しなければいけないところは我慢し、それで杉並区が今度、ある面では、我々の再開を1つの核にしながら、まちづくりをちゃんとしていくという1つの点火材になればベストだという格好で、我々もまちづくりということをすごく意識しながらやってきたと思います。そういう意味合いからすると、今、現時点、150名はそういう気持ちで全員いるわけです。だから、これ以上、何を求められるのかということがわかりません。だから、ある面では何を求めてまちづくりというものを考えるか云ったら、少なくとも今、我々、阿佐ヶ谷住宅の中はベストな内容として作り上げた。それも、ある面では行政にも理解され、あるいは、ある面では周辺の賛成、賛成を我々はとっていません。そんな反対意見に対して賛成意思なんて集める気持ちもありませんけれども、ある面では合意されている方もいるかと思っています。そういう格好で、我々は自信を持って、この21世紀から22世紀に向けたまちづくりにひとつ参加しているのではないかと考えています。

部会長 それでは、先ほどお約束しましたように、15分まで休憩します。15分から再開いたしますので、またお集まりください。

(休憩)

発 言 者	発 言 内 容
-------	---------

部会長 それでは、引き続き審議に入りたいと思います。前半の議論の中で、以前、平成16年につくられました成田地域のまちづくりの報告書というか、まとめで、一応、いろいろなものが整理されたという論点の中で、やはり阿佐ヶ谷住宅の建替え計画についての内容が、周辺も含めたまちづくりにとって、いいまちなのかどうかというところの議論が少しできていないのです。ここは、計画論を云々するところではないので、そういう場がないという話もありますので、区のほうとして、今後、この協議した内容についてどのような取り組みを考えていらっしゃるか、お答えいただけますでしょうか。

成田地域まちづくり協議会 添付の資料の説明がちょっと終わっていないので、それだけさせていただいてもよろしいですか。

部会長 それはいいです。

まちづくり担当部長 これからの進め方ということですが、1つは、これを実現するためにどうしたらいいかということで、私どもとしても、先ほど阿佐ヶ谷住宅の さんと、 さんがおっしゃっていましたが、全員の権利者がまとまったということは、私どもとしては今までなかったこと、大変難しいことだと思っておりますので、それをできる限り尊重して、私どもとしてもいい形で、できる限り周りの方々の意見も入れながら、落ち着くところに落ち着きたいというふうに思っているわけです。

今、私どもと地元の権利者の方々、その後、まちづくり協議会の考え方をベースにした実施案をまとめてまいりましたが、それを東京都の都市計画のいろいろな所管にご覧いただき、それから、杉並区の都市計画審議会の先生方にも、次にご覧いただくということで、実施のための手続について、これからいろいろ考えていきたいと思っております。ただ、大きなネックは2つほどあります。

1つは、やはり、今までいろいろご発言されていますが、周辺の方々のご理解をもう少し得られるよう、地元の方々を中心にさらに努力をしていただきたいということを東京都の担当、これは用途地域だとか、促進型の地区計画を所管する部署がいろいろ言っておりますし、また、私どもに新たに交通の問題、青梅街道へのアクセスをやはり、もう少しきちっと考えるべきではないかというようなことも東京都から言われておまして、そういった面で、私ども、それから地元の方々にも努力が更に必要だろうというふうに思っております。

ただ、先ほど申し上げましたように、地元の方々の結束というのは、これは

発 言 者	発 言 内 容
-------	---------

必須条件でございます。1人がもうこれはついていけないというふうにお話しになった途端に、瓦解することがございまして、そういった面でも、我々としては相当、慎重に進めていかなければいかんだろうというふうに思っています。

まだ私どもが見ましても、これはいろいろな見方があるかと思いますが、さらに区の都市計画審議会、それから東京都の都市計画審議会の先生方だけを考えても、このプランをやはり何とか進めようというふうな立場に立っていただくためには、さらに例えば緑の問題だとか避難場所の問題でございますとか、それから交通の問題、今後、どういうふうに、先ほど、一部それに関連することが東京都からも言われているということを申し上げましたけれども、そういったこともありますし、さらに、そういった点では、とりわけ学識経験者の皆様のご意見も伺いながら、何とかいい形にできればというふうに思っております。

こういったことで、課題はまだあるわけですが、私どもとしては、できれば来年の春か、ちょうど今ごろの季節、そういったことを目途に、そういった手続をぜひ進めていきたいというふうに思っておりますし、これからいろいろな方々とお話し合い、対話、いろいろな説明会もありますでしょうし、私ども、場合によっては、いろいろなところの集会にも顔を出させていただくといったことも含めて、いろいろな形で努力はしていかなければいけないというふうに思っております。

部会長

ありがとうございました。部長に質問はありますか。委員の皆さん、いいですか。

委員の方々の2回にわたる議論、事情をお聞きした上での委員の方々のご意見、あるいはご判断を伺うことにしたいと思います。

委 員

前回、それから今日、いろいろご説明をお伺いした中で、率直に私の感想を申し上げたいと思います。

今日、冒頭に今後の具体的な活動目的とか目標、活動日程を承ったわけですが、少なくとも今日ご説明いただいたテーマというのは、阿佐ヶ谷住宅の建替えに関する問題だったと思います。もちろん、申請団体のほうとされては、もっと幅広い、いろいろなまちづくり活動というのを目指しているわけですが、少なくとも今日のご説明の中では、道路の問題とか防災の問題とか、もちろん、いろいろ団地の中にあるわけですが、とりあえずのターゲットは阿佐ヶ谷住宅の問題というふうに私は受けとめました。

発 言 者	発 言 内 容
-------	---------

一方、これも今日のご説明の中で、前回もご説明いただきましたが、この申請団体と、それから、いわゆる反対協議会というのでしょうか、現に建替え組合のほうとも話し合いをされているという反対協議会のメンバーは、何人かはわかりませんが、複数のメンバーの方がダブっていらっしゃる。

それから、これは必ずしもそうではないというご説明はちょうだいしましたが、私の印象としては、少なくとも反対協議会の考え方と、今の申請団体の方たちの考え方は、ほぼ同一ではないかというふうに、申しわけありませんが、私は感じました。

それで、認定まちづくり協議会というのは、いろいろ異なる意見を持った人たちの幅広い合意形成を図っていくという、極めて困難な仕事を担ってしまうわけです。非常に率直に言いまして、そういう異なる意見を集約していく、幅広い意見を聞いていく、そして柔軟な姿勢で合意形成を図っていくということを、この団体にお任せしていくことについて、私としては率直に危惧を感じました。以上、意見として申し上げます。

部会長
委員

続きまして、 委員、お願いいたします。

私は今回、初めてこの専門部会の委員になったので、やり方についていまひとつ理解していないところがあるのですが、2回にわたるやりとりを通じて感じたことを述べさせていただきたいと思います。

最初に、協議会云々の前に2つのことをちょっと言いたいと思うのです。今回、この阿佐ヶ谷住宅の計画及びその周辺の問題については、いずれ個々に建替えの計画が出されたり、あるいは区のほうで地区計画等の計画が示されたりして、説明とかやりとりの機会があるかと思います。今回のこの申請そのものは、その計画内容の是非を問うという性格のものではないというふうに理解します。ただし、この緩和型の地区計画をとるということについては、周辺の理解を十分求めるよう、関係者は努力していただきたいというふうに意見としては申し上げたいと思います。

もう1つは、当初からこの成田地域まちづくり協議会と名称が重なっていることを、私は大変気にしてしまして、誤解を招いたり、混乱を招いたりするのではないかと思います。今回の申請者の皆さんがいろいろなまちづくりを考えたい、周辺のことも考えたいということについては理解したいと思ひますし、セミナー等を開催して、より、この地域の問題、阿佐ヶ谷住宅の問題を考えて

発 言 者	発 言 内 容
-------	---------

いきたいということについて、そういう会の活動を進めることについては、私は是とする立場に立ちたいと思います。

しかしながら、今回のこの協議会の、いわゆるまちづくり条例に基づく協議会の認定を認めるかどうかという議論につきましては、今、さんもおっしゃったことに重なりますが、先ほど来、いろいろ聞いていますと、この阿佐ヶ谷住宅高層化等反対協議会との違いがやはりよくわからない。そして、エリアが非常に広いということに対して、その協議会がそういう意見を束ねることが担えるかどうかということについても疑問があります。

特に、先ほど申請者の方が少しおっしゃいましたが、ここで協議会の認定をもらうことによって、これからの活動、反対とは申し上げなかったと思いますが、活動がやりやすくなるのだというような発言が、私は正直言って、ちょっと気になっております。今、建替え組合の方々のいろいろなお話を聞いても、成田地域まちづくり協議会を認定することが、なんかまたこの地域をさらに混乱させる芽をつくることになるのではないかということをお正直言って恐れます。そういう意味では、活動と場のとり方はいろいろあるかと思しますので、協議会認定について、私は判断をちょっと躊躇したいというふうに申し上げます。

部会長
委員

ありがとうございました。それでは 委員、どうぞ。

今、委員からもお話がちょっと出たのですが、この2回のお話を伺いまして、1番気になったのが、当初、認定申請書に出されていたエリアの問題なのですが、今回、活動とか目的等、お話を伺って、そのまちづくり協議会の認定要件である組織の活動する区域に一体性があるかどうかというところが、今日聞いた中では、ちょっと見えてこなかったというのが私の意見です。その辺のところは今回、以前のお話でいろいろな意見を聴取しながら、こうやっていきたい、いいまちづくりをしていきたいというお気持ちがとても伝わってきたので、その辺がもうちょっと出てくるのかなということで期待はさせていただいたのですが、今回の説明の中では、どうしても阿佐ヶ谷住宅のところを中心に話されたので、その辺の一体性がちょっと見えなかったのかなというのが、正直、私の感想です。

委員

私も前回からの疑問がまだ何となく解消されずに、今日過ごしてきているような気がします。前回からの疑問はというのは、このまちづくり専門部会というのは、内容に関して議論するのではなく、まちづくり協議会として認定をど

発 言 者	発 言 内 容
-------	---------

うするかということなので、その認定をする必然性とか必要性というようなことについて、どうも理解がまだできない感じがします。

これまでにいろいろと、これからのまちづくりに関しての思いとか提案的なご意見というようなことを強くお持ちであるということは大変よくわかりましたし、そのような熱心な活動がまちづくりをさらに幅広く続けていくことの底力というか、要素としては大変期待できると思うのです。けれども、当初から名称が同じであるとか、前回のご意見、ご発言というようなことにもあったのですが、そもそも、報告書の形でこれまでさんざん努力をされて、多方面で努力をされてつくり上げられてきたまちづくり協議会及びその成果、その評価ということが、今回、新しく提案されているまちづくり協議会では、あまりなされていないというふうに、今日判断しました。むしろ、今までの協議の努力が評価されていないというよりも、もう1度、仕切り直すことを目的として、今回、協議会を発足させたいというふうに受けとめたわけです。

したがって、こういう合意形成というときには、時間的な合意形成、経緯というのが非常に重要だと思います。そのことによって、例えば建替え組合の方のお話でわかりましたが、これまでに大変な努力を払ってこられていると。その結果として全員の合意が出ているということは、やはり一定の成果を上げていることは事実だと思うのです。ですから、そこから出発をするという形で、さらに調整協議を図っていくというような姿勢を持っていくのであれば、つまり、以前のまちづくり協議会のさらなる発展、展開としての可能性があるのであれば、私は少し考えようかなと思ったのです。けれども、そのようなところがあまり感じられなかった、理解できなかったということで、今のところは、本日のところですがけれども、認定ということには、やはりふさわしくないのではないかと判断しております。

当然、できる限り多くの人の合意を得ることは重要なことで、それは官民両方、お互いに努力して、さらに努力していくということは当然で、それを前提とした上で、特に認定をしなくても、こういう活動はまた発展させていくことは不可能ではないと思いますし、そういうような努力をぜひ続けていただければ、さらに広範なまちづくりというところに展開できるのではないかなと思っております。

部会長

ありがとうございました。委員の皆さんの意見を伺いまして、私、部会長と

発 言 者	発 言 内 容
-------	---------

しましては、今回は団体の認定の申請ということでございます。阿佐ヶ谷住宅の建替えについては、平成6年からいろいろな経緯を踏んでこられていると。それから、そういった中で、周辺との関係とか、いろいろ問題点も抱えている地域に、たまたまこの地区が存在しているということがありまして、非常に計画も難しいところだと思います。いろいろな条件が全部満足されるということとはなかなかできないと思いますが、一応、区の支援で成田地域まちづくり協議会を立ち上げて、最大公約数としての成田地域のまちづくり報告書をつくられたと。そこから、阿佐ヶ谷住宅の方たちは熱心に建替えについての方向性を検討されて、今日、建替え決議に至ろうとしている。そして建替えについては全員同意。今後、決議がなされると思うのですが、そういったタイミングにあつて、周辺の地域の問題、行政側はいろいろなことをやっていこうということがあつても、地域の住民の方には見えない点もいろいろあるので、反対運動とか疑問も出てくるのだと思います。その問題を議論することについても、この今回の申請のあつた認定団体の活動が、それをうまくやれるかという、この建替え決議のタイミングにはなかなか時間もかかるし、問題点も多いし、あるいは、そんなことをしていると、また組合のほうの合意形成が崩れてしまうというような状況にもなりかねません。

区としては、まちづくりの認定団体でなくても、周辺の地域の人参加を得ながら、いろいろな計画を進めていくという覚悟もおありのようですから、委員の方々の意見も、皆さん、今回は団体の認定は見合せて、また周辺のまちづくりについて、いろいろな活動を重ねられる中で、行政とのいい関係プレーができるようなチャンスがあれば、まだ団体の申請をなさってもいいと思いますので、今回は活動もまだ熟していないということと、このタイミングに鑑みて、認定はしないということできたいと思います。今後の活動で、また、まちづくりについて努力されることを、双方ともに、区域の中の方、外の方も、まちづくりについてはいろいろご協力いただきたいと思います。

それから、まちづくり条例のまちづくり認定団体についての誤解が、この間、かなりあつたように思います。先ほど 委員も言われましたが、団体を認定するということだけが住民参加のまちづくりの方法でなくて、今回、まちづくり条例によって住民がまちづくりをするということの提案権を獲得できたという条例です。もともと住民参加で区は進めておりましたし、最初のまちづくり

発 言 者	発 言 内 容
-------	---------

協議会も区が呼びかけはしましたけれども、住民参加のまちづくりとして合意形成を図って、その趣旨に沿った、まちづくり構想に基づいた地区計画をつくってきたわけです。住民参加のあり方はいろいろな形があるわけです。まちづくり条例に認定されなければ、区が主導で進めているやり方が非合法だとかいうことではありません。唯一の方法ではないわけです。明日、まちづくり活動助成の審査会がありますが、認定されない団体がいろいろな活動をして、まちづくりに成果を上げ、いろいろな活動をしていらっしゃるグループもあるわけです。ですから、そういう意味からして、これを唯一、1つの絶対的な仕方だというふうに思わないでいただきたいと思います。

ある程度、地域で活動が認知され、活動が盛り上がった団体が認定の申請を出していただいて、次の段階としてのステップアップ、例えば地区計画を目指すとか、地域に独特のルールをつくっていくとか、あるいはNPOを立ち上げるとか、これは、そういうステップアップに使っていただくための認定の組織でございます。最初から、どういう活動をするかわからないところにお墨つきを与えて活動を認定するということはありません。ただ、受付方法としては、皆さんに活動をしていただくためにハードルを低くしてありますが、ここで議論することによって、この地区に本当にふさわしい団体かどうかというのを決めるという形にしております。

この結果は都市計画審議会に報告いたしまして、区長に申し上げるということになっております。この結果を都市計画審議会の会長に報告したいというふうに思います。

都市計画課長

事務局から事務連絡がございます。本日の専門部会の議事録につきましては事務局のほうで作成いたしまして、でき上がりましたら部会長の署名をいただきたいと思います。

次回の専門部会でございますが、審議案件が発生いたしましたら日程を調整し、ご通知申し上げます。

事務局からは以上でございます。ありがとうございました。

成田地域まちづくり協議会

こちらのほうにも、ぜひ、議事録はいただきたいと思いますのでよろしくお願ひします。

部会長

それはホームページで公開されますから、だれでも見られます。

それでは、閉会いたします。

- - 了 - -